



異常気象を生き抜く

この地球上では、これまででは考えられなかったような異常気象が頻発しています。原因は温暖化という見方が大勢を占めていますが、なぜ有効な対策を打ち出せないのでしょうか。もっとも国際協力の枠組みがこれほどガタガタに崩れていては早期解決はとても望めそうにはありません。それならば自分たちでできる対策を考えてみませんか。

まずは記憶に新しい豪雨ですが、時間雨量100ミリを超え総雨量300ミリを超えると、花崗岩風化土(鬼真砂)という土壌の特性からどこでも簡単に土砂崩れが発生するという現実を覚悟しなければなりません。あとは崩れた土砂がどこまで来るかという判断です。自分の位置と周りを見て、あの山の中腹ならここまで、この崖の上からならここまでとか、ケースバイケースで想定してみてください。どこまで逃げたら安全か、よく考えておかなければ生命を失います。

次に水害ですが、上島町は海に囲まれているので、床上浸水まではあってもそれ以上の浸水は考えにくいと思います。浸水で溺死という危険よりは、河川や水路の増水で流される危険があります。災害時の田畑の見回りは死と隣り合わせです。特に夜間は危険です。

続いて強風ですが、侮ってはいけません。風速30m以上を体験している人はそんなに多くない筈です。二本足で立っている人間はいとも簡単に倒されます。その倒れ方次第で簡単に生命を失います。老朽家屋も危険がいっぱいです。風の場合には風向きにより通り道がありますから普段からよく観察しておく必要があります。風が集まる場所では実際の風速よりも強い風が吹きます。これには物影に避難するしか対策はありません。風は目で捉えにくいので、その影響も予測しにくいのです。

さらに干ばつも要注意です。島は傾斜が急なので豪雨もあつという間に海に流れてしまいます。日照りが少しでも続けば保水力の無い山や農地はアツという間にカラカラに干上がってしまいます。農業用の素掘りの溜池や雨水の利活用は勿論ですが、様々な方法を駆使して貯水量を確保することをお勧めします。

島に生きるこうした知恵は、元々多くの先人が築き上げてきたものですが、近代化という名のもとに見失ってしまった大切なことではないでしょうか。島に生きるという原点から、今一度、サバイバルなシステムを再構築してみませんか。

上島町長 宮脇 馨

CONTENTS

広報かみじま
2019年10月号 第181号



今月の表紙
弓削中学校ろ漕ぎ大会
(関連記事24ページ)

- 2 町長の独白 / 目次
- 3 島々の話題
- 4 人事行政に関する状況の公表
- 6 健康だより
- 8 上島の遺跡 / 島おこし協力隊活動報告
- 9 LETTERS FROM SCHOOL
- 10 ALTコーナー / 観光協会だより
- 11 上島の文芸 / KAMIJIMA KITCHEN
- 12 しまなみ農業だより
- 13 消防だより
- 14 お知らせ
- 19 島々の話題
- 22 戸籍だより / 1歳の誕生日おめでとう
- 23 行事カレンダー / 潮汐表
- 24 KAMIJIMA SNAP / 潮湯だより

9/8
(日)

〇(令)からの始まり!
掴め勝利の輪(和)!

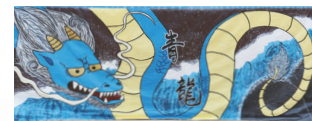
弓削高校運動会

秋の運動会シーズンの先陣を切って、弓削高校の運動会が開催されました。夏休み中から、アーチの製作やダンス、応援合戦の練習に取り組んだ成果を披露し、保護者や地域の方達から盛んな拍手や声援が送られました。

ヘガサス2019
(騎馬戦)



奪取! タイヤ



フォークダンス



8/19 ~23 離島球児たちの甲子園 全国離島交流中学生野球大会

8月19日から23日にかけて、長崎県対馬市で第12回全国離島交流中学生野球大会が行われ、全国6都道県から25チームが参加し、本町からも岩城中学校と弓削中学校の野球部から“KAMIJIMA”として15名が参加しました。

1回戦で昨年2回戦で顔を合せた対馬ヤマネコボーイズと対戦し、1-5で破れ昨年

の雪辱を果たすことはできませんでした。とはいえ、野球をとおして全国の離島の仲間と交流できたことは、一生の記憶に残る思い出になったことでしょう。

